

その九

「工事の目的はなんですか？」。

それを考えることの煩わしさから真っ先に逃れようとしていた私ですが、実はそのことこそが最も重要なポイントでした。

信じられないような工事成績アップは、少し落ち着いたものの現在も持続しています。

それ以降三年連続で高知県優良工事表彰を受け続けてもいます。それは確かに、数字として目に見える成果なのですが、私が感じる本当の成果は別にあります。

それは技術屋さんそれぞれの意識改革です。彼らは明らかに視点が変わりました。それに伴って仕事のやり方も変わっていきました。そしてそのことの所産として、若い技術者一人ひとりが成長していきます。何よりこのことが、私が考える最大の成果なのです。

そのことを生み出したもの。それを端的に表したのが「工事の目的はなんですか？」と

いう、この言葉であり、そこから派生した「地域住民を向いた仕事」なのです。公共建設工事には様々な種類があります。が、もっとも代表的なものは、やはり「道路」でしょう。「道路」をつくる時、暫定施工を繰り返しながら完成に近づいていく、というのによくあるパターンです。未熟な技術者であればあるほど、各々の構造物にしかその関心が向かず、全体の完成イメージを持たないまま施工してしまいます。しかし一人前の技術者にしたって、その道路工事が、大きく言えばその事業が、何を目的としているか、言い換えればその道路は完成することによって、どんな効果が生まれるのか、をイメージして仕事をしている人は、そんなに多くはないのではないのでしょうか。「工事の目的は何ですか？」

それぞれの現場でこの問いかけをしていくことで、方向は、「地域」や「住民」に向けて収斂していきました。

考えてみれば当然のことです。私たちは「現場」という、公共建設工事の最前線であり、もっとも重要な場所におり、その「現場」こそが外との唯一の接点なのです。